

九州木材工業

エコアコールウッド売上げ倍増

八女産材製なども好調

九州木材工業（福岡県筑後市、角博社長）のエコアコールウッド（福岡県の産学官で共同開発された保存木材）事業が、現状の厳しい需要環境のなかでも実績を伸ばしている。今年に入ってからと同商品売上高（製品、注入など含む）は前年同期比ではほぼ倍増。これは大口需要の獲得ではなく、各方面での様々な取り組み、連携が少しずつ貢献し、積み重ねられた結果。

中心分野になるのり込んでいる。さきには、設計関係者からの福岡県内のレストラ外構材受注。特に昨今では外壁材など壁板、またデッキ材やラティス、ルーバーなどへの

住宅メーカーからの

引き合いが増えており、外構材に国産材を

使ってみたいという設計関係者からの需要

（設計入れ込み）を取

生産、製材など関連業

者との連携し、同社員

が山の伐採から製材現場にまで立ち会い、絶対に間違いない産地証明材を供給する事業で、一定の需要層から高い評価を得て継続した受注を得ている。住宅関連資材ではほかに、構造用集成材用ラミナ（エコアコール

ウッド処理）。価格面での課題がまだ残るが、寸法安定性、耐久性等では高い評価を得ており出荷を開始。また、早期の販売開始を目標とする商品として標準木材がある。エコアコールウッドの特性を生かし、従来からある薬剤溶解脱の課題を克服す



エコアコールウッドの内装材

るべく技術開発を進めている。一方、土木資材関連では、木製水門板（商品名・ウッドプレート）を乗富鉄工所（福岡県柳川市）と共同開発した。福岡県産材による同製品の使用が既に開始されており、耐水性、寸法安定性が高いうえに、苔がつくなど環境問題にも対応する新技術として、行政関係者による

も、委託注入、注入士

視察も行った。ほかにも、前年同期比並みを維持。今後も各方面と連携し、需要を少しずつ広げていきたい」（角社長としている）

野は広がって

からの同社全体の業績

台販売、公共事業などが低迷するなか、同事業に牽引される形で、

前年同期比並みを維持。今後も各方面と連携し、需要を少しずつ広げていきたい」（角社長としている）

野は広がって

からの同社全体の業績